

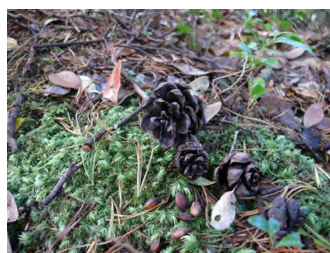
鹿児島の植物46

ゴヨウだ！！

針葉樹は寒い地域の植物というイメージがありますが、鹿児島には第68号でも紹介した二葉マツの仲間をはじめ、いろいろな針葉樹があります。今回は、県内に2種ある五葉マツを紹介します。

ヒメコマツ(ゴヨウマツ)は、大隅半島の高隈山が南限で、県内では高隈山だけに分布の記録があります。

山の尾根や斜面、岩上地などの明るい場所に生えます。葉ひとつのところから5本出るので、この名前がつけられたと言われます。



ヒメコマツの松ぼっくり

ヤクタネゴヨウは、名前にもあるように、日本では屋久島と種子島にのみ分布する固有種です。有用な植物で、以前は丸木船を造つ

たり、船の底板などに使ったりしていました。

昨年12月に、屋久島で調査の機会があり、屋久島環境保全協議会の方々の案内で、西部の瀬切川左岸の山に登りました。ヤクタネゴヨウは、標高約200m～800mぐらいの尾根や斜面、岩上地などの明るい場所に生えていません。調査地は急峻な崖が多く、そこには、高さ30mに達するヤクタネゴヨウがあり、中には直径205cmにもなる大木も生えていました。



なかなか行くことができない危険な場所で、風が強く乾燥する厳しい環境にヒメコマツもヤクタネゴヨウも生きています。

ヤクタネゴヨウの大木

鹿児島の地質28 かごしま化石発見伝

鹿児島県の北端、熊本県天草に隣接する出水郡長島町獅子島は古くから中生代白亜紀のアンモナイトや三角貝トリゴニア、巻貝などの化石を産する島で有名です。この獅子島の海岸で、2004(平成16)年2月に中生代の海中に生息していたクビナガリュウの化石が発見されました。

長頸竜類に属するクビナガリュウは、大型八虫類ですが、分類上は恐竜のなかまとは異なります。首が長く頭の小さいプレシオサウルスと、首が短く頭の大きいプリシオサウルスの2種類があり、このとき発見されたのは約9700万年前のプレシオサウルスです。獅子島は御所浦層群などの白亜紀の地層が多く見られる地域で、化石コレクターの宇都宮聡さんが地表に現れていた骨の部分を発見しました。計3回の発掘で脊椎骨などの化石を採取し、大学などの化石専門家が鑑定した結果、骨の緻密質の薄さから浮力を使って生活する海生生物であることや、首のつけね部分と見られる骨が長頸竜の特徴に合致する椀状であったことからクビナガリュウの可能性が指摘されました。骨の大きさを骨格図にあてはめると、全長は約6mと推定されました。クビ

～獅子島の化石 地質担当 鈴木 敏之

ナガリュウ化石は、国内では北海道で多数見つかっていますが、九州では初めての発見となり、学術的にも貴重な化石の資料となりました。

さらに、2005(平成17)年には、クビナガリュウ化石が発見された場所の近くで、獅子島地区海生八虫類調査研究委員会のメンバーが直径約40cmのアンモナイト化石を発見しました。あなたも化石の島「獅子島」に足を運んで、見つかる化石から中生代の当時の様子を頭の中に思い描いてみませんか。



獅子島片側港モニュメントの前で撮影